

教職論

教職課程科目／2 単位／T 授業

担当教員 登坂 学、兒玉 修

■使用テキスト 藤本典裕編著『新版 教職入門 一教師への道』図書文化

◆参考テキスト

- ①教育学の辞典・事典（例：『新版 教育小事典 第3版』学陽書房，など）
- ②教育六法（例：『教育小六法』学陽書房など。毎年改訂されるので最新版が望ましい）。
- ③テキスト各章末の「参考文献」欄に掲載された図書などのほか，次のものを参照。
（ア）教育科学研究会編『現実と向きあう教育学—教師という仕事を考える 25 章』大月書店
（イ）佐藤学著『教師花伝書』小学館

講義概要・一般目標

この科目は，教員免許取得を希望する人は必ず履修しなければならない必修科目の一つとして，教員免許法に定められた科目です。

教育は誰もが日常的に経験することがらであることから，誰でも教育について一言をもっています。しかし，教育される者としての立場で経験したことだけで教育を語ることはできません。教師を目指すには，教えられる者から教える者へと，教育をとらえる視座の大きな転換を経なければなりません。

このような観点から，この科目では，教職課程における専門科目の位置づけ，教師の仕事の具体的な姿と職務の内容，教師を支える法制度，現代教育の諸問題と教師に期待される役割，教員の養成・採用・研修，学校における教員の役割などについて学びます。以上を通して，教職に対する意欲を高め，教職という仕事へ向けての見通しをもって，今後の専門科目の学習へと発展的につなげていくことを目指します。

到達目標

- 1) 教師の社会的使命と具体的な職務内容について理解する。
- 2) 教師の仕事の場としての学校制度とその管理・運営について理解する。
- 3) 教員としての研修の権利と義務や遵守事項，身分保障制度などについて理解する。
- 4) 教師の仕事に向けての目的意識を身に付ける。
- 5) 教師になるためにどのような学びと経験を積んだからよいかについて理解し，どのような資質能力を身に付けるべきかについて見通しを持つことができる。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

* テキスト各章のポイントを以下に示します。テキスト各章の扉に掲載された概要とあわせて，テキストで学ぶさいの参考にしてください。

序章 教職課程で学ぶこと

この章のポイント

教師になるためには、子どもに教える内容と方法についての知識を身に付けるだけでなく、それ以外にもさまざまなことを学ばなければなりません。ここでは、教員免許を取得するためにどんなことを学ばなければならないか、その概略を理解します。

第1章 子どもの生活と学校

この章のポイント

第1節 最近の子どもの生活：教師として子どもを導くには、子どもたちがどのような生活をいとなみ、どのような困難や悩み、思いや願いをもっているのかを知らなければなりません。ここでは、各種統計資料にもとづいて、今日の子どもたちの状況について理解します。

第2節 最近の学校の中の子ども：子どものために作られたはずの学校で、子どもたちは必ずしもびびと過ごせていないのが現状です。ここでは、同じく各種統計資料を手がかりに、子どもにとって学校がどのような場となっているかを理解します。

第2章 教師の仕事

この章のポイント

第1節 学習指導：学校は何よりも子どもたちの学習を指導するために作られたもので、子どもたちの学習が効果的に行われるようにさまざまな工夫がなされてきました。他方で、子どもたちが学校で何をどのように学ぶかは、社会のありようとも深く関わっており、教育の内容を誰がどのように決めるかは常に大きな問題となってきました。ここでは、こうした学習指導をめぐる工夫や問題について、基礎的な理解を得ます。

第2節 生徒指導・進路指導：学校ではたんに知識を教えるだけでなく、子どもたち一人ひとりに寄り添って、自分を肯定的に受け止め、毎日楽しく過ごせるように励ます生徒指導も、学校が取り組むべき重要な課題です。同時に、子どもたち一人ひとりが自己の将来を展望し、進路を見定めて選択できるように援助する進路指導も、学校の重要な任務です。ここでは、こうした生徒指導や進路指導について教師はどのような役割を担うことが求められるかを学びます。

第3節 教育相談：学校では子どもたちを集団として指導するのが基本ですが、子どもの悩みや困難に個別に寄り添って援助しなければならないことも少なくありません。その場合には、保護者の協力を得たり、同じ学校の他の教職員の協力を仰いだりして、その子どもの問題を深く理解し、その子にとって最善の解決策を探ることが求められます。問題によっては、学校以外の専門機関との連携を図らなければならないこともあります。ここではこうした教育相談において教師が留意すべきことは何かを学びます。

第4節 学級経営：子どもたちは学校ではいずれかの学級に所属し、教科を学んだり道徳性を身につけたりするのも、基本的には学級集団を基盤とします。そこで、子どもたちが仲間と響きあって教科を学んだり、仲間に支えられながら大切な価値を学んだりできるように、教師は学級の雰囲気や人間関係が良好に保たれるよう気を配らなければなりません。ここでは、こうした学級経営について、教師はどのような役割を担うことが期待されているかを学びます。

第3章 教師に求められる資質・能力

この章のポイント

第1節 教師に何を求めてきたか、いま何が求められているか：戦前の学校は子どもたちを国家に従順な臣民に仕立て上げることを任務とし、教員はその先兵としての役割を担わされました。そのために教員養成も軍隊式の訓練を基盤とするものでした。戦後は学校が子どもを主体とするものへ転換され、それに伴って教員の任務も大きく転換されました。ここでは、戦前の教員養成の歴史、および今日の社会情勢のもとで、どのような教師像が求められているかを学びます。

第2節 児童生徒と教師——学ぶことと教えること：教師の指導がなければ子どもの成長発達には確かなものとなりません。しかしまた、教師の思惑だけで子どもの成長発達を左右することはできません。ここでは、教師はどのような姿勢で子どもたちに向き合ったらよいかについて考えます。

第4章 教員の養成と採用

この章のポイント

- 第1節 教員養成の制度：日本における教員養成制度は戦前と戦後では大きく異なります。ここでは、戦前と対比しながら、戦後の教員養成制度はどのような理念に立つものかを理解します。
- 第2節 教職課程の仕組みと内容：教育の質を保つには、社会的に認知された資格を有する教員を確保することが欠かせません。そのために教員の資格要件を定めたものが教員免許法であり、大学における教員養成もこの免許法にもとづいて行われます。ここでは、教員養成の要件が免許法でどのように定められ、大学ではどのような科目を学ぶことになっているかを理解します。
- 第3節 教員の採用：教員の採用・任命は、明確な基準にしたがって公正に行われなければなりません。ここでは、そのためにどのような制度や仕組みが整えられ、どのような課題があるかを理解します。
- 第4節 教員の研修：教員がその職責を果たすためには、たえず研修を行って自らの資質・能力を高める努力をしなければなりません。そのために各種の研修の機会が用意されています。ここでは、教員が研修を行う意義および機会について学びます。

第5章 教員の地位と身分

この章のポイント

- 第1節 教員の地位と身分：教員が子どもに寄り添い、その成長発達を促すには、安心して職務に専念できることが不可欠です。そのため、教員は法律によって身分が保障されています。しかし、教員の社会的地位は、その職務内容の複雑さと必ずしも十分に釣り合っているとはいえません。ここでは、教員の身分保障の仕組みと社会的地位の現状について学びます。
- 第2節 教員の待遇と勤務条件：教育の仕事は複雑高度であり、教員には高度な資質能力が求められます。そこで教員として有能な人材を確保できるようにするため、教員の待遇と勤務条件が整えられています。ここでは、教員の待遇や勤務条件について、概略を学びます。

第6章 学校の管理・運営

この章のポイント

- 第1節 学校制度：学校には、教育の目標や、対象とする子どもの発達段階や特徴に応じてさまざまな種類があり、教員もその学校種別に応じて異なった役割を担います。ここでは、子どもの成長発達の間であり教員にとっては職場である学校の制度について、概略を学びます。
- 第2節 学校管理・運営体制：学校はその教育目標を達成するために効果的な管理・運営を行わなければなりません。そのためには、教員も互いに役割を分担したり、連携して学校の運営にあたったりすることが求められます。ここでは、学校の管理・運営がどのように行われ、教員にはどのような役割が期待されているかについて、概略を学びます。